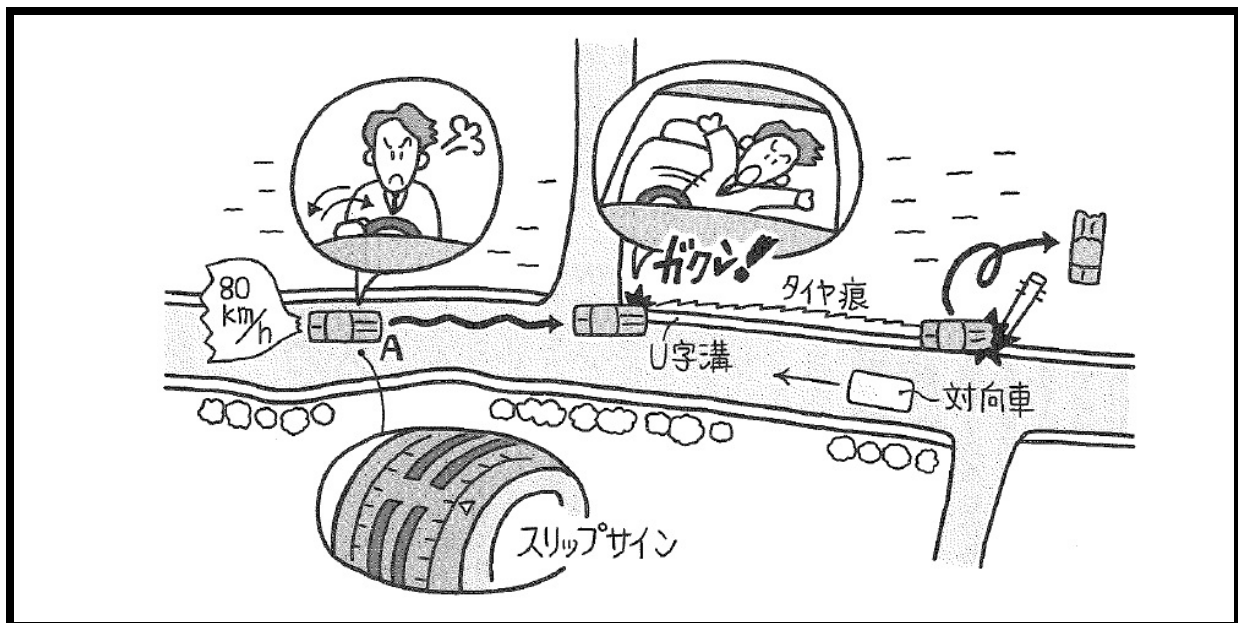


■事故の概況



事故類型：車両単独

発生日時：雨上がりの夕方

当事者A：普通乗用車 20歳代 男性

■ 事故の概要

Aは残業を終えて帰宅の途中、中央線のない幅員5.5mの道路の左寄りを時速約80kmで走行していました。道路の右側には生垣と人家、左側には畑があり、このまま左側を走行していけば、たとえ対向車がきても問題なくすれ違えると考えました。

もう少し行くとゆるやかな右カーブが始まると思ったとき、道路の中央寄りを走行している対向車のヘッドライトを確認し、自分は左側に寄っているのに、このままではすれ違えないではないかと考え、対向車に警告の意味を込めてハンドルを左右に揺らしながら走行しました。

その直後、左の前輪からガクンをと下に落ち、その衝撃でAは助手席側に飛ばされ、A車は道路下のU字溝にタイヤがはまり込んだまま走行、道路左側にあった電柱に衝突し、跳ね飛ばされて停止しました。

■ 事故から学ぶ

A車を調査したところ、タイヤが摩耗してスリップサインが出ていました。Aはこのことを全く認識していませんでした。今回の事故は濡れた路面という環境に加え、A車の整備不良（摩耗タイヤ）・速度の出し過ぎ・運転操作不適等が重なったことによる事例です。

またAはシートベルトをしていなかった為、路外逸脱時、体が助手席側に倒れ、衝撃回避や停止のための操作ができませんでした。もしシートベルトをしていれば衝撃があっても体はシートに拘束されるので、ブレーキを踏むなり、ハンドル操作でU字溝を乗り越えるなどの操作が出たのではないのでしょうか。

Aは対向車が堂々と道路中央を走行してきたことに感情を害して、警告の為にジグザグ走行をしたようです。しかし、もしかしたら対向車は初めて通る道で様子がわからなかった為、慎重に運転していただけたかもしれません。運転するときにはくれぐれも冷静になるように心がけましょう。